

清白寺(山梨市)

せいはいくじ

ここが鎌倉時代末期に夢窓疎石(むそうそせき)が開いたとされる臨済宗の仏教寺院である清白寺



まざまな石造物がある







清白寺総門







三門(鐘樓門)



振り返って見る/総門、三門(鐘楼門)、仏殿、本堂が一直線上に並ぶという、禅宗寺院の様式に則った伽藍配置となっている



これが室町時代中期(1415年)に建てられた禅宗様の仏殿/国宝



正面裳階部の柱間五間の典型的な禅宗様仏堂/禅宗様建築として最小の規模のものではあるものの、禅宗様の特徴がコンパクトにまとまっているという



裳階(もこし)と呼ばれる庇が巡らされている



禅宗様独特の屋根の反りが見られる



下屋庇部分は 出三斗、疎(まばら)垂木





入母屋造の檜皮葺きの屋根



正面の菱格子に飾りをつけた禅宗様の花狭間の棧唐戸(さんからど)と花頭窓(かとうまど)/花頭窓裾が広っておらず左右が垂直に降りている古式に見られる特徴が見てとれる



扉吊元の藁座(わらざ)も禅宗様独特の形式

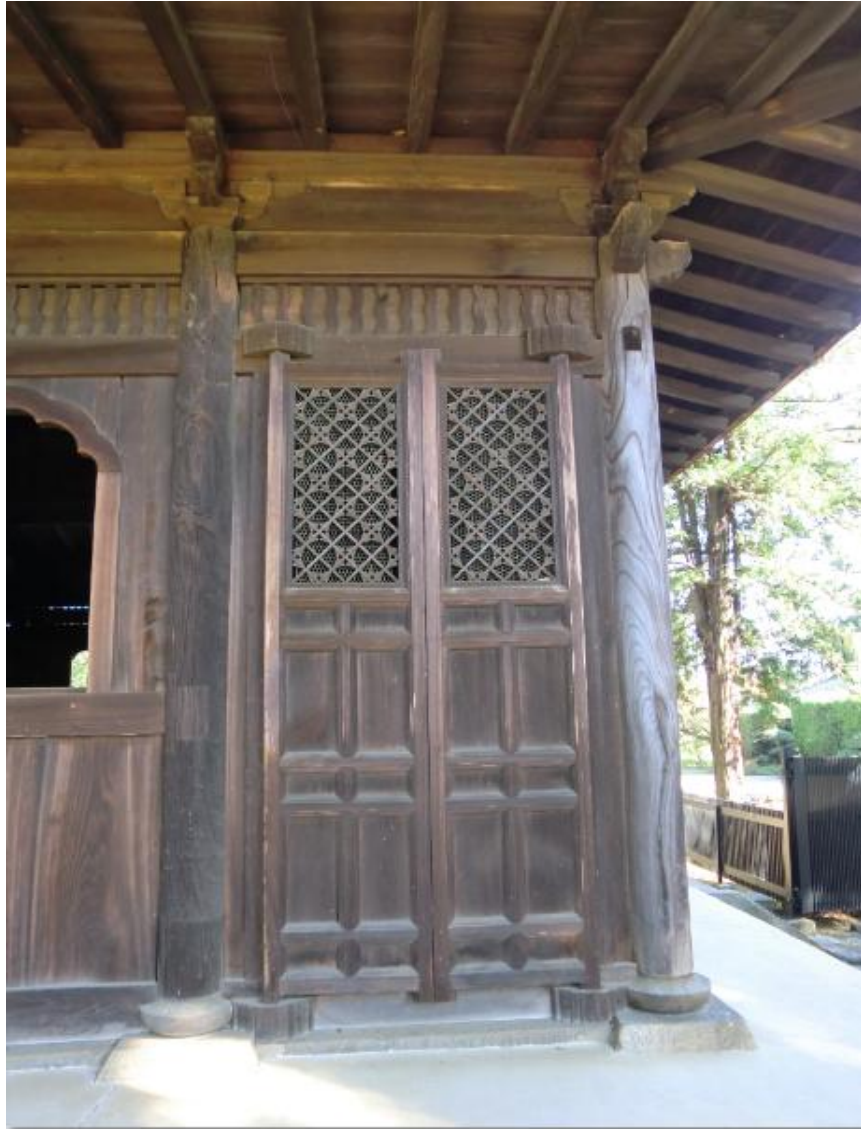


頭貫の先端は、上端が水平で渦を描いた禅宗様特有のもの



扉や窓の上部には、これまた禅宗様建築によく見られる弓欄間(ゆみらんま)が巡らされている





柱の上端を絞り込んだ粽(ちまき)も禅宗様の一つの特徴である



縦羽目の板張りの外周も禅宗様の特徴の一つという



外側に広がるように並ぶ扇垂木(おうぎだるき)や、軒下に隙間無く組物が並ぶ詰組(つめぐみ)などに禅宗様の特徴を見ることができる



上屋の軒下は出組の詰組



妻面の蕪懸魚(かぶらげぎよ)



仏壇前の身舎柱を全て省略して少し広くとられた堂内



天井に何か書いてある



巨大な墨画の雲竜が描かれた珍しい鏡天井





内部架構の様子





柱上部の粽の様子



柱が礎盤の上に立っていることや漆喰で固めた土間も禅宗様の特徴とされる



説明板がある



大きな寺院には様々な金堂、講堂、塔、食堂等、「伽藍(がらん)」と呼ばれる建物が配置されているが、その中でも本尊仏を祀る建物は、金堂と呼ばれ、伽藍の中心的存在である。この金堂は中世以後「本堂」と呼ばれるようになるが、さらに禅宗寺院では特に「仏殿」と呼ばれることがあるという。

国宝

せい ぱく し ぶつ だん

清白寺仏殿

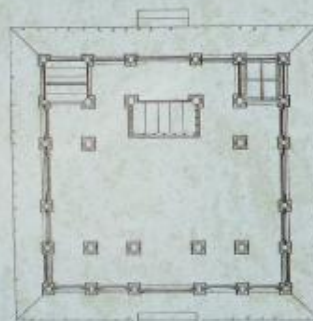
昭和30年6月22日指定

この仏殿は、わが国の仏教建築の主な様式のひとつである禅宗様建築の代表的遺構として知られ、「方三間裳階付仏殿」とよばれる形式の典型例でもあります。桁行・梁間(裳階)は7.24mと、同様の形式をもつものの中で最小規模でありながら、内部に文様彩色と丁寧な漆塗が施されている点は他に例がありません。建立年代は、組物に墨書が発見され、応永22年(1415)と判明しました。天和2年(1682)の寺院火災にも災いをまぬがれた貴重なものとなっています。

鎌倉から室町時代は、貴族や武士の信仰を得て、各地に禅宗寺院が盛んに創立されましたが、その後衰退したため、現存する遺構のうち室町中期までさかのぼるものは極めて少なく、禅宗仏殿の古い様式を伝える一例として価値の高いものです。



正面図



平面図

重要文化財

せい ぱく し くら

清白寺庫裏

平成17年7月22日指定

寺蔵の古文書により元禄2~6年(1689~1693)に再建されたと考えられ、昭和61~63年の解体修理工事により、ほぼ当初の形式に復原されています。規模が桁行17.5m(9間半)、梁間12.2m(6間半)と大きい点や、妻(正面の三角形の部分)の意匠が優れている点などに特徴があります。江戸時代中期の禅宗寺院庫裏として発達した平面や構造を有しており、貴重な遺構です。

市指定有形文化財

せい ぱく し ほん だう

清白寺本堂

平成14年5月1日指定

仏殿の背後に位置し、元禄6年~正徳3年(1693~1713)に建立されたと見られています。3行2列6室の買取りをもつ、「方丈型本堂」とよばれる形式で、桁行18.2m(10間)、梁間11.8m(6間半)の規模をもちます。屋根は入母屋造で、もとは茅葺であったものを桧瓦葺に変えています。他にも各所に後世の改変を受けているものの主要部の部材がよく残っており、大型で本格的な平面構成と部分的に独特な形式を持っています。

県内の方丈型本堂の17世紀末頃の形式を知りうる遺構として貴重なものです。

市指定有形文化財

もく ぞう む そう こく し ぎ ぞう

木造夢窓国師坐像

平成13年3月31日指定

夢窓国師坐像の一般的な特徴は、「夢窓の撫で肩」といわれる極端な撫で肩が有名なほか、頭頂の尖る卵形の飾、鼻下の長さ、下唇などがあり、この清白寺の夢窓像は、その特徴をよくとらえています。夢窓像は、彫像は豊富にありますが、没後に造られた遺像ばかりで、在世中に造られたいわゆる寿像は、天龍寺妙智院蔵の画像があるのみです。清白寺像は、妙智院画像に相似しており、夢窓国師最晩年の寿像に近い彫像と見られています。



清白寺

Seihaku-ji

山梨市三ヶ所620

清白寺は、寺蔵の『仏殿沿革調査書』（明治39年〔1906〕）によると、足利尊氏が開基し、夢窓国師（疎石）を開山として、正慶2年（1333）に創立されたと伝わる臨済宗の寺院です。天和2年（1682）の火災で仏殿を残してほとんどの堂宇が焼失し、その直後から享保16年（1731）の総門の完成まで再建工事が行われています。総門、放生池、鐘楼門（改築）、仏殿、本堂が一直線上に並ぶ禅宗特有の伽藍配置が見られます。

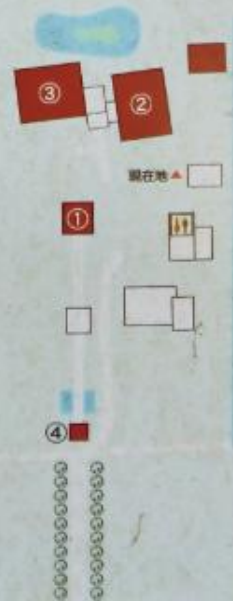
境内には梅樹が多く、夢窓国師が中国の杭州西湖から入手して植えたと伝わる古木は「西湖梅」の名で知られています。

山号 海涌山

本末 京都 妙心寺末（もと鎌倉 建長寺末）

本尊 釈迦如来

境内案内図



- ① 仏殿
- ② 庫裏
- ③ 本堂
- ④ 総門

- 文化財に手をふれないで下さい。
- 境内は禁煙です。
- 干社札等の貼札はご遠慮下さい。

重要文化財に指定されている清白寺庫裏(くり)



元禄2年～6年(1689年～1693年)頃の再建という



茅葺の巨大な切妻屋根







庫裏の妻面のデザインが素晴らしい/左手は清白寺本堂



本堂(山梨市指定文化財)と玄関の唐破風/元禄6年～正徳3年(1693年～1713年)頃の建立という



方丈型本堂と呼ばれる形式の本堂



本堂から庫裏を見る



参考ホームページ

<http://kankodori.net/japaneseculture/treasure/030/index.html>

<http://www9.plala.or.jp/takedagun/siseki/Yamanashi/kofu/Seihaku-ji/seihaku-ji.htm>

<http://www.kokuhoworld.com/009.html>

<http://mapbinder.com/Map/Japan/Yamanashi/YamanashiShi/Seihakuji/Seihakuji.html>

<http://www010.upp.so-net.ne.jp/teiryu/Yn02.html>

